

4. 入学者選抜委員会

阿部 直（委員長・東海大学内科学系呼吸器内科学）

医学部の入学者選抜制度は、良医としての適性を備えた学生の選抜に十分な配慮が足りず、学力重視に偏る傾向がある。入学者選抜委員会では、各大学による理想的な選抜方法の採用を目的として、国内外の選抜方法を調査・検討している。

第15期日本医学教育学会：2007年には「入学者選抜における態度・資質の評価」というテーマで入学者選抜に関する討議会を開催し、医学部AO入試の現状と問題点、面接の意義、米国医学部の入学試験制度と面接の位置づけ、等に関する講演と討議を行った。2008年には前年と同じテーマで適性試験、絵画や詩文を題材とした小論文、個人面接とグループ面接などについて講演と討議を行った。

第16期日本医学教育学会：2009年には、指定校推薦入試、学士編入学制度、地域枠入試、プロフェッショナルリズムの立場から見た米国医学部の

選抜制度、に関しての講演を中心に入学者選抜討議会を開催し、全国32大学からの参加者が活発に討議した。また、入学者選抜委員会委員長が日本医事新報社から医学部入試のあり方について取材を受け、4427号に掲載された。2010年には、7月に開催される第42回医学教育学会大会のパネルディスカッション『入学者選抜方法を考える—良医の適性を持った人物の選抜—』を以って入学者選抜に関する討議会に代える予定である。パネリストには、学力以外の様々な評価方法を入学者選抜に取り入れると共に、追跡調査を実施している国内4大学の入学者選抜の責任者に加えて、米国医学部受験制度に詳しい米国人医師の計5名を招いている。フロアーからの活発な質疑応答・討議と共に、参加者自らが自大学の入学者選抜方法の改善に寄与することを期待している。

5. 倫理・プロフェッショナルリズム委員会

後藤 英司（委員長・横浜市立大学医学部医学教育学教室）

日本医学教育学会には、長年にわたり倫理教育委員会が設置されていたが、19年の委員会の見直しに伴い、行動医学教育委員会との統合が提言された。これに伴い、倫理・行動科学委員会が設けられたが、平成21年度に再び見直しがあり、現在の倫理・プロフェッショナルリズム委員会が発足した。このように委員会の構成が変化している背景には、全国的に一般（教養）教育課程が縮小傾向にあることや医学専門課程における倫理、安全、心理、患者—医師関係等の教育の位置づけが不明確であるという問題がある。

21年度は、本委員会のメンバーとして生命倫

理とプロフェッショナルリズムに関するオピニオン・リーダーを集め、11月に「白浜記念臨床倫理ワークショップ」を聖路加看護大学で2日にわたり開催した。参加者は23名（医学、看護、薬学など）で、プログラムには臨床倫理とプロフェッショナルリズム教育に関する内容がほどよくブレンドされ、参加者から高い評価を得た。また、委員会では、毎回この領域の教育に関する情報や意見の交換がなされ、活発な討議が展開されている。

生命倫理とプロフェッショナルリズム教育の内容には重複する部分も多いが、視点等には大きな違